

---

# 無色のパノラマ

エルル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無色のパノラマ

### 【Nコード】

N4848A

### 【作者名】

エル

### 【あらすじ】

中学生の海が今いるのは美術館。海はパノラマ絵画を見ていた。超短編小説。人は失ったものがあれば、得るものが必ずある生き物なのです。

横広い画面のパノラマ。

広い視野をもつそれには、引き込む力がある。

パノラマの画面の世界へと。

美しい彩色。

広い空間。

そんな理由もあるのであろうが、何より。

視界の端から端までという、普段見る景色と変わらない情景にこそ、引き込む力があるのだと考えられる。

もちろん、3つの条件が揃って更に、だと言えよう。

学校の見学で長瀬海は美術館に来ていた。

海は現在中学1年生。

特に目立つところのない普通の中学生である。

海は、絵画の隣にある説明文を読んでいた。

飾られている絵画はパノラマのもの。

額の中では、村人達が楽しそうにダンスを踊っている。

「よく分かんないなあ……」

海は小さく呟き、文と絵とを交互に見る。

別に何も引き込まれはしない。

心の内でそつとそう思うと、少し離れて絵を見る。

確かに、他の絵　パノラマ以外の絵　と比べれば、魅力がある。

何か分からないけれど、目にしっくりとした印象が残る。

おそらくこれがパノラマの世界に引き込む力。

3つの条件が揃って更に、だと言えよう。

「2つでも結構いけるんじゃない？」

くす、と笑った。

海は美術館が好きではない。

つまらない、とかそういう理由ではなくて。

海の目には生まれつきの障害があるのだ。

色を認知できないのである。

どんなに濃い赤、青だろうと、全く色が分らない。

海の目に見えるのは無職の世界なのである。

モノクロの世界が彼女の前には広がっているのだ。

色がなければ絵を見る楽しさも半減する。

そういう理由で、海は美術館が好きではなかった。

パノラマの世界に引き込む力。

海にはその内の1つ、

美しい彩色が見えなかった。

でも。

こんな私でも分かった。

美しい彩色なんて、なくてもしっかり感じ取った。

パノラマの魅力。

きっと私は感性の豊かな女。

色を失った代償に、感性を貰ったの。

海には、無色のパノラマで充分だった。  
私には、無色のパノラマで充分なの。

もし彼女の目に色が戻ったら、

「私、本当にパノラマの世界に入っちゃったかも」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4848a/>

---

無色のパノラマ

2010年10月13日04時50分発行